

保育ステップ® ジャンプ

Hoiku Step jump



発行者

千葉県民間保育振興会

代表者 茂呂 剛

H P <http://shinkoukai.main.jp/>

事務局 〒270-0032

千葉県松戸市新松戸北 2-11-3
(小金西グレースこども園)

TEL:047-345-4994 FAX:047-345-2496

MAIL: info@shinkoukai.main.jp

お知らせ

青年部会員募集

～これからの保育を共に語ろう～

楽しく学び、語り、高め合いましょう。

活動の様子はホームページの青年部ブログで
ご覧ください。

また、誌面内の会員募集中の
ページも併せてご覧ください。



第48回 全国私立保育連盟 関東ブロック保育研究大会

千葉県大会

保育者の集い

on the Web

毎年、多くの保育関係者が集う研修の場として開催している、千葉県民間保育振興会主催『保育者の集い』ですが、令和3年度は全国私立保育連盟・関東ブロックにおける保育研究大会（千葉県大会）として、『保育者の集い on the Web』というテーマを掲げ、YouTubeでの動画配信（オンラインデマンドWeb研修）という方式で実施しました。多くの方に視聴していただき、学んでいただけたことと思います。

ここでは準備を担った委員の方々からの報告をご紹介します。大きな大会であること、また新型コロナウイルス感染症の流行下であったことから、大変なことも多々あったと思いますが、それ以上のやりがいや楽しさがあり、多くのことを得ることができたようです。

◆基調講演◆

『園内研修の学びを通じて園のチーム力を高める取り組みについて』

（講師）和洋女子大学人文学部
こども発達学科

教授 矢藤誠慈郎氏



和洋女子大学人文学部こども発達学科・教授、矢藤誠慈郎先生の研修の企画をしました。研修動画撮影に立ち合い、研修を聞き、自分自身の学びを深めることができました。

保育所保育指針第5章の職員の資質向上の部分である、保育士が責任感や自覚を持ち、しっかりと資質を高めていくこと、それを組織として上げていくことやリーダーにはリー

ダーとしての専門性の質の向上が必要であることを含め、個別での指導より、職員全体の組織で一人ひとり、自ら育ち合えるような環境を作り出すために、どのようなことに留意していくか等を、園内研修の基本的な考え方や園内研修の実際の進め方・同僚性と専門性・質向上と人材育成の講座に分けてお話いただきました。

日、繰り広げられる保育実践を、状況と対話をしながら、自分の行為を振り返り、絶えず検討して、次の行為を作り出していること、積み重なった経験が、瞬間的な判断の材料となっていること等を、矢藤先生が丁寧な言葉にしてください、改めて関係性の難しさや保育の奥深さを感じると同時に、価値のある意味のあることをしているのだと思えました。そして、園内研修のあり方や捉え方を見直す機会になりました。

矢藤先生のお話の中で、基本的な原則の特に協調性より同僚性の部分に改めて、感銘を受けましたし、意識付けをよりして実践していかないといけない課題とも思えました。日々の保育実践の営みの中で、保育士が安心して、自分の思いや考え、知恵を出し合えること、それを吸収し学び合い、高め合っていける、その為に、私自身が出来ること、すべきことは何かを考えさせられました。

園内研修の進め方の例を聞きながら、自園の園内研修に取り入れていかなければいけない内容であったり、やはり、保育所保育指針に照らし合わせていく重要性や共通語を返して、コミュニケーションをとっていく事を、地道におこなっていくと、普段の言葉使いや記録、保護者への伝え方や伝わり方も変わってくるということも念頭に置き、人格を変えるのは困難であるが、環境を変えるのは比較的容易であること、ヒヤリハット

日々のコミュニケーション、対話を通し、相手を理解して分かり合うことや、ポジティブな面に目を向けて、アプローチを掛けていくこと、毎

の事案、一つとっても、個人の学びを職員の組織の学びへとしていく園内研修を継続して行くことで、職員一人ひとりの質が上がり、組織全体の質向上、チームワークに繋がることをより深く理解できました。

保育には正解がないからこそ、専門性を磨き合うプロとしての意識を持ちながら、保育を語り合い、認め合い、共に学び合い、高め合う職員集団であるよう、園内研修を通じ、より保育力を組織とし向上させていく努力をしていきたいと思いました。

(報告者) 松戸市 いわさき保育園
主任保育士 橋本洋子

◆第1分科会◆

『コロナ禍にある保育園の子育て支援』時には弱音を言ってもいいんだよ』

(講師) 淑徳大学 総合福祉学部
教授 稲垣美加子氏



長引くコロナ禍で、私たちは今まで経験した事のない不安やストレスにさらされています。子ども家庭支援に精通している稲垣先生のお話を伺い、子どもや親の置かれている状況を知ること、私たちが求められている事について考えるきっかけとなりました。多くの保育現場に足を運ばれている先生のお話には様々な共感を得るとともに、リアリティを感じることができました。

中でも印象に残ったのは、児童虐待についてお話しされた事です。特にコロナ禍では、家庭の中に閉じこもってしまっただけに見えるようになっていく事でした。今回の研修ではネグレクトに焦点を当てていました

が、日々の保育の中で、子どもたちを中心に考えるあまり親の行動に厳しい目を向けてしまうことが少なからずあります。親も決して子どもを傷つけようとしている訳ではない、初めてのこと戸惑ったり、子育てに不安を感じているということを改めて感じました。虐待が起こる背景を知ること、サポートの仕方も変わってくるのではないのでしょうか。

子育て支援は現場の保育士にとって神経を使います。だからこそ、今回の副題にあるように一人で考え込まず弱音をこぼせる環境を作っていきたいと思いました。

先生からエールを頂き、私たちの仕事の尊さを改めて感じる事ができました。このような機会を頂けたことに感謝いたします。

(報告者) 市川市 百合台保育園
園長 西野未絵

◆第2分科会◆

『いま、本当に求められる保育とは？』させる保育からしてみたくなる保育へ』

(講師) 社会福祉法人 桜福祉会
理事長 若盛正城氏



今回、私は若盛正城先生の研修を担当させていただきました。この研修では、保育指針から自分の保育を改めて振り返り、子ども主体の保育とはどういうことなのか？そこから考えられる保育者の役割とは何なのか？について話をしていただきました。

この話の中で一番感じたのは、環境の大切さと保育者同士の関係性です。今までいろいろな園の話聞き、

研修でも環境について学んできましたが、正直自分の園ではできないことがあると感じることもありましたが、大切なのはそれを全て真似しようとするのではなく、自分の地域・環境の中で楽しいことを見つけ、事だと改めて考える機会となりました。保育者が楽しいと思えることで、子どもたちも安心して「やってみたい」と遊び込み、いろいろなことを感じる事で主体性につながっていく。改めてその大切さに気づき、もう一度自分の周りの環境に目を向ける良い機会となりました。

その子どもたちにとって良い環境を作るためには職員の関係性も大切になってきます。その為には、大人同士もお互いを認め合うことだと話していただきました。それには園全体でそのことを理解し、職員同士で肯定的なやり取りができる機会を作っていく事が必要だと感じました。一人一人が意識をすることも大切ですが、園長や主任、先輩保育士がその環

境を整えてあげ、初めてそれができるとだど今回、若盛先生のお話を聞いて強く感じました。若盛先生のお話は常に聞き手に寄り添い、時にはチクツと考えさせられることも伝えてくださる、本当に有意義なものとなりました。自分の周りの環境に目を向けることはもちろん、子どもだけでなく職員の内持ちにも寄り添う、そんな保育ができればと思います。

(報告者) 流山市 城の星保育園

保育士 久保島泰史

◆第3分科会◆

『子どもと一緒に創る遊び歌』

(講師)

保育シンガーソングライター

荒巻シャケ氏

荒巻シャケ先生の「子どもと一緒に創る遊び歌」の研修では、子どもたちのエピソードを元にご自身が一つの行動、言動をもとに作った



遊び歌を教えてくださいました。

日頃から子どもたちの言葉、行動に目を向けることを大切にしながら保育をしていかなければならないということを再認識することができました。子どもたちが好きな事、好きな物を遊び歌にすれば子どもたちが楽しめるのはもちろん、保育者たちも楽しく保育を進めていけると感じました。

この研修で学んだ曲、メロディーを参考にし自分のクラスの子どもたち一人ひとりの行動、言葉をよく観察して歌詞をオリジナルに変えたりしながら、よりよい保育を進めていけたらなと思っています。また、子どもたちは様々な事に興味、関心があ

るのでその時期によって更に歌詞を変えたりして楽しんで行きたいと思っています。行事にも取り入れ、行事ごとに更に興味、関心を深められるようにしていきたいです。また、新年度が始まります。子どもたちが安心して環境に慣れるには遊び歌が必要だと思うのでこの研修で学んだことを一年間継続していきたいです。

この研修を活かしてこれまでよりも良い保育を目指していきたいと思っています。また、同じ保育園の保育者とも共有しながら、自分のクラスだけではなく園全体で遊び歌を楽しんでいきたいと思っています。

(報告者) 流山市 このは保育園

保育士 染谷佳介

◆第4分科会◆

『描画における子どもの心理』

(講師) 植草学園大学発達教育学部

発達支援教育学科 講師

金子功一氏



毎日の保育室の中でみられる自由画は、子どもが自発的に無意識の心理状態の中で行われていることが多く、その子の絵から読み解く心理状態や、テーマに沿った主活動の絵画の中で、自分で選んだ色やモチーフ、形で表現している絵からその子の心理を読み解くコツなどが学べる研修でした。

保育士は、子どもと共に素材に触れ、体験することで子どもの中にとどのような感性が育まれるのかを確かめていかななくてはいけない。子どもの描画には、思考や感情が表現されており、また共通してみられる発達段階があるといわれている。1歳からみられる「擦画期」から7歳ごろに

みられる「図式後期」まで段階により関わり方や活動計画、援助方法なども変わっていく。擦画期の時に、口に入れても安全なクレヨンなど子どもに合った道具を揃え、絵を描きながら全身運動を行い、保育士や母親に見守られながら行うことで、より積極的に向かうようになり、自己効力感が高められる関わりを工夫することで、絵を描くことが好きな子どもに育つと言われている。そのためには、環境設定も大事となる。また、色の使い方からみられる心理や、性別による色の使い方の違い、モチーフの描き方、自然の中のものを描くときの心理など、子どもがその絵の中に込められた思いを保育士が気付き、寄り添いながら援助していく方法を学べる機会でもあった。

今後も、子どもが表す一つ一つの行動には意味があることなので、その思いに寄り添いながら日々の保育をしていかなければいけない。今回は、絵画から読み解く心理でしたが、

遊びの中から読み解くこともできるし、コミュニケーションから読み解くこともできる。心理を学ぶことで会話から読み取るのではなく、その子の心の思いに寄り添い、共感できるようにになっていくので、今後も子どもの心理は継続して学んでいきたいと思う。

(報告者) 四街道市 大日保育園

保育主任 飯高歩

◆第5分科会◆

『健やかな心と身体を育む』

『保育園の食事提供』

(講師) 大妻女子短期大学部

専任講師 小野友紀氏

今回、現在の日本人が抱える食生活の問題点から乳幼児期にふさわしい食生活のために私たちが取り組むべき食事の環境作りと姿勢についてご講義いただきました。

食事は人間の生命を育み、豊かな



心を育てる上でとても重要なものであることは言うまでもありませんが、現在の子どもの取り巻く食事環境はこれだけ物が豊かであるにも関わらず様々な問題を抱えていることが分かりました。栄養の偏り、孤食、食そのものに興味・関心の低い子どもたち・その背景には家庭における食の意識の低下が大きく関わっています。これからの保育園は、園に通う子どもへの食育に加え保護者に対しての『食育』として今まで以上の情報発信を行い、子どもにとっての食の大切さを共有していくことが求められていると感じました。

私は保育士として好き嫌いなく何でも食べられる子になってほしいと

いう気持ちで働いてしまい、つい食べる様に促す言葉をかけてしまいがちです。食べられなかったものが食べられるようになることは確かに自信に繋がることもあります。しかし講義の中で、まず子どもが食べたいものをどの位食べるか自分で判断できる環境を作ることが重要であること、子どもにとって心に残る食事とは『何を食べたか』より『どう食べたか』であることを知り自分の保育を見直す機会となりました。

昨今はコロナウイルスにより食のあり方も全く変わりました。パーテーションを挟んで黙食をする子どもたちの姿には本当に胸が痛みます。その様な環境下であっても保育園として子どもたちに少しでも食の大切さが伝えられるよう取り組んでいきたいと思えました。

(報告者) 松戸市 こすもす保育園

保育士 神田真奈美

◆第6分科会◆

『日本の美しい言葉と作法』

(講師) 植草学園大学 名誉教授

野口芳宏氏



私が担当させて頂いた研修は、第6分科会、野口芳宏先生の「日本の美しい言葉と作法」です。研修を通してとても大切なことを学ばせて頂きました。

挨拶の仕方、お礼、身だしなみ、脱いだ靴を揃えるなど、当たり前のことですが、それが日常で出来ているか、子どもたちに教えることができているのか、改めて考える機会とな

りました。現代では『自分で考えて行動出来る子を育てる』といった考えが主流になっていると感じます。考えることも大切ですが、子どもは初めての事ばかりなので、教えてあげなければ分からないこともたくさんあります。また、一度で覚えることは難しいからこそ、繰り返し伝えるという教育が大切なことだと学ぶことができました。私もこの研修で学んだことをすぐに実践し、同じ職場の保育士とも共有していこうと思えます。

今年度初めて保育者の集い委員になりました。まず、自分はどうな研修を受けてみたいか、保育士さんたちはどんな研修を必要としているのかを考え、たくさんさんの案を出し合った中で『美しい言葉』についての研修が決まりました。講師の選定から依頼や内容についての打ち合わせなど、すべて一保育士である自分たちで行うという、貴重な体験となりました。普段、保育園で働いている時には、

関わることでできない皆様ともじっくりお話しさせて頂く機会があり、言葉遣い、電話の仕方など社会人として必要なことも学ぶことができました。今回の経験は自分にとって大きな力となったことでしょう。

他にも集い委員会を通してわかったことは、集いの活動は、やり甲斐がありとても楽しい事。やってはいけないことはなく、自分のやりたいことをゼロから形にしていける。しかしやりたいことをやるためには、日頃からアンテナを張り、様々な研修を受けたり、本を読んだりして、知識をもつことが大切だと学んだので、これからは日々研鑽し、子どもたちのため、園のためになる人材になっていきたいと思えました。今から来年度の活動が楽しみです。

(報告者) 浦安市 弁天保育園

保育士 大栗航平

青年部会 会員募集中!

千葉県民間保育振興会・青年部会では、会員を募集中です!

Q. 青年部って何をするとおころなんですか?

A. 一言でいうなら、仲間をつくる場所です。

青年部では、45歳までの次世代の保育界を担う志を持った園長や副園長、事務長などが集まり、研修企画および勉強会など様々な活動を通して園経営や保育を学び、また共に高められるよう活動しております。

どうかより多くのリーダーに自園から出て、研鑽と交流に励んでいただきたい、青年部がそうした場として、さらに活性化していきたいと考えています。まずは一度、ぜひご参加下さい。

見学の申し込み、問い合わせは…

青年部会長 飯島一幸 (船橋市・さくら保育園)

TEL: 047-302-8301



令和4年度 保育関係予算に 対する要望書を提出

(調査要望委員会)

9月30日、令和4年度保育関係予算に対する要望書を自民党県議の皆様へ提出しました。

自民党・宇野様へ議員会館にて提出しました。

当日は保育所問題議員研究会総会も開催され20名を超える自民党議員の方々が出席の元、要望書提出となりました。

会の中では、子育て支援課課長より保育状況やコロナ対策について説明がなされました。



《砂上史子先生 研修会》を実施 (研修委員会)

9月28日、『保育現場の人間関係対処法』について研修を行いました。

人と対話すること、子どもの個性を大切にするとともに自分自身、職場の仲間を大切にすることを学びました。

相手にどんな言葉かけをしようか考えるよりも、自分の感情や表情をコントロールし、一緒に協力し合いながら働いている大人の姿を見てもらう方が、まわりの大人、子どもたちにとっても良い環境なのかもしれません。

保育現場では職場の人間関係、コミュニケーションの取り方、時間が足りないなどの問題点があるようです。

次年度はそのような問題点に応えられるような研修会を開催できるようにしたいと思います。



千葉県民間保育振興会ホームページ



ホームページアドレス <http://shinkoukai.main.jp/>



新たな時代を迎えるにあたり、皆様により細かな情報をリアルタイムに発信できる場としてホームページを活用しています。



- ☆ **見やすいページ構成**・・・更新状況やお知らせなどを、見やすい位置に表示しています。
- ☆ **更新作業の効率化**・・・細かな更新がしやすくなり、リアルタイムな発信が可能となります。
- ☆ **各委員会活動報告のスムーズな公開**・・・研修報告をはじめとした振興会の活動報告を随時公開して参ります。
- ☆ **閲覧しやすい加盟園情報ページ**・・・地図からエリアが選べるようになりました。
- ☆ **わかりやすいお問い合わせページ**

編集後記

後悔しました。本棚を整理していたら『やなせたかし大全』がふと目にとまり、思わず手を伸ばし…。気がついたら数時間が経過。そういえば、昔から部屋の整理整頓をしようと決意するも、途中で目にした何かに気を取られ、ただ物を散乱させただけなんてこともしばしば。せめて仕事では同じような失敗はしないようにと心掛けるも、アチラコチラにやりかけのものが山積みになっっている現実。

まずは目の前のことをやり遂げる。大人になりずいぶん経つ私の今の目標です。

(n・s)